

平成23年7月22日

高松市長

大西秀人様

高松市塩江地区地域審議会
会長 藤嶋忠男



建設計画に係る平成24年度および26年度の実施事業に関する意見の取りまとめについて（平成23年5月18日付け高地政第66号に対する回答）

このことについては、別紙のとおりです。

建設計画（合併基本計画）に係る平成24年度から26年度までの
実施事業に関する意見について

地区名：塩江地区

番号	項目	意見の内容
1	塩江病院の運営方針について	<p>市は、本年4月から高松市立病院（塩江分院を含む）の運営に当たって、地方公営企業法を全部適用し、病院事業管理者の下、迅速な意思決定や経営責任を明確にするとともに、機動的かつ自立的な病院運営を図ることとし、先般開かれた市議会特別委員会に、病院事業管理者の意見を反映した新病院基本計画の変更案を提案しました。</p> <p>その内容は、在宅等での看取りが困難な患者さんに対しては、一般病棟でアメニティにも配慮した病室等を設置し対応することとしているものの、目玉として考えていた緩和ケア病棟の整備をせず、地域で不足している在宅での看取りを支援する「地域緩和ケア」に重点的に取り組むとしたほか、市民の健康管理には必要と考える「人間ドック」は、医師の疲弊防止や医療資源の有効活用などの視点から実施しないなどでありました。</p> <p>新たに建設される附属医療施設についての運営方針の詳細は提示されていませんが、今後、附属医療施設の運営方針についても変更が危惧されます。</p> <p>ご存知のとおり、塩江分院は、地域唯一の医療機関であり、地域の健康と生命を守るかけがえのないものであります。</p> <p>附属医療施設の病院運営に当たっては、費用対効果だけでなく、過疎地域である塩江の医療を支える唯一の病院としての自覚をもって努力をして欲しい。</p>
2	高松新病院附属医療施設	<p>新病院基本計画で、附属医療施設の建設場所については休業中の塩江新温泉ホテル跡地を最有力の土地として、市は精力的に地権者と交渉努力されています。ただ、売却価格での折り合いがつかず用地交渉が暗礁に乗り上げているようですが、合併特例債等の期限もあり早急に用地を確保し、地域住民の総意である、新温泉ホテル跡地への整備を強く求める。</p> <p>市としては初期投資の負担が少ない市有地がいいのは決まっているが、すべてが療養病床であることを考えれば、環境面からいっても町内には他に適地はないと考える。用地交渉に関しては市が責任を持ってやるべきで、住民が意見を挿し述べる立場にはないが、地域医療を守るという立場に立つなら政治的な判断も含めて市当局の英断を求める。</p>

3	新設統合校	<p>統合校の開校は当初計画では平成26年4月の予定になっておりましたが、先日の審議会で開校が半年ないし1年遅れるとのことであった。</p> <p>地域住民・生徒も当初の予定で開校すると期待し予定しております。</p> <p>体育館の建設が遅れる説明を受けたが、第2体育館もあることから開校後に体育館を建設するなど工夫し、当初の計画通り平成26年4月に開校するよう要望する。</p>
4	温泉施設の整備（奥の湯温泉の今後）	<p>奥の湯温泉が平成24年度から指定管理になることが決まっているようですが、これまでも審議会で、指定管理の以前にリニューアルすることについての意見や要望が毎回のように出ております。しかしながら、当局は、まず指定管理を実施した後に、経営改善を図った上でリニューアルの議論が出てくるとの回答です。現状（現施設）での指定管理では良い方向へ向かうように思えません。</p> <p>奥の湯温泉は昭和51年に建設され、以後毎年のように増改築を繰り返してきたことから、内部構造が非常に複雑なうえ、耐震構造以前の建物であるため、近い将来発生すると言われております。東南海地震発生時は非常に危険な状況になることが想像でき、利用客の安全を確保することは市の至上命題です。</p> <p>現在の奥の湯温泉の機能は、温泉、宿泊、宴会、食堂等多岐に渡っており、本機能を継承し改築するには、多大の経費を要することから、以前にも申し上げましたが、各機能の費用対効果を検証した上で、無駄な部分の機能を省き、メインである温泉入浴・軽食等の飲食に特化することなどで、最小限の投資でリニューアルすることが可能と思えます。</p> <p>また、温泉の入湯客が塩江温泉郷全体でも減少傾向にある中で、奥の湯温泉は非常に良質な温泉であることが、県境の地にありながら現在でも多くの市民に利用されている所以です。しかしながら宿泊客が減少し、奥の湯温泉周辺に数軒あった民宿も、現在営業を実施しているのはわずか2軒となっており、周辺地域の衰退をも招いております。リニューアルによる奥の湯温泉の宿泊機能を、民宿など他の民間施設がカバーすることにより相乗効果が期待でき、上西地区の活性化の核になると考えます。</p> <p>塩江町のシンボリック施設である奥の湯温泉を、市民の憩いの場所・長く愛される施設として、また塩江温泉郷の将来像も見据えて、リニューアルを早期に着手することを強く要望する。</p>